



Title	センター活動記録、投稿規程等
Citation	北方人文研究, 12, 167-179
Issue Date	2019-03-25
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/73551
Type	bulletin (other)
File Information	12_43_Activities.pdf



[Instructions for use](#)

2018年度北方研究教育センター活動報告

2018(平成30)年度はシンポジウム2件、講演会2件、研究会等4件を行った。

1 シンポジウム

(1) 「日露国際研究集会 コレクション形成史からみる日露関係史Ⅱ—北の東西交流—」

日時 2018年6月3日(日) 10:00～17:00
会場 北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟(W棟)1階W103

プログラム

趣旨説明 谷本 晃久(北海道大学大学院文学研究科)

第一部 近世の東西交流

シェブキン, ワシーリ(ロシア科学アカデミー東洋古籍文献研究所)「情報口としての松前・蝦夷地: 近世における地理学的情報の日露交流」

東 俊佑(北海道博物館)「シヨンコ乙名宛蝦夷地奉行の定書について」

鈴木 建治(国立アイヌ民族博物館設立準備室)「IOM所蔵和書からみるコレクション形成史」

谷本 晃久(北海道大学大学院文学研究科)「モスクワにわたった安永の松前藩士発給文書」

第二部 近代の東西交流

田村 将人(国立アイヌ民族博物館設立準備室)「グリゴリエフ採集の八雲地方のアイヌ言語彙」

丸内 勇津流(北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター)「IOM所蔵出版物に見る明治期日本の正教会」

鈴木 仁(北海道大学大学院)「樺太庁による古典籍の蒐集とその背景」

第三部 コレクションの魅力

佐々木 利和(北海道大学アイヌ・先住民研究センター)「IOM所蔵アイヌ・北方関係資料の魅力Ⅱ: 書誌学的視点から」

主催 科学研究費基盤研究(S)「マルチアーカイブアル的手法による在外日本関係史料の調査と研究資源化の研究」ロシアⅢユニット

共催 北海道大学アイヌ・先住民研究センター
北海道大学大学院文学研究科北方研究教育センター

(2) サハリン・樺太史研究会第52回例会・10周年シンポジウム「世界史におけるサハリン・樺太史研究」

日時 2018年12月1日(土)10:00～17:30
会場 北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟(W棟)2階W202

プログラム

東 俊佑(北海道博物館)「日本における前近代サハリン・樺太史研究の動向: 1264-1867」

竹野 学(北海道大学)「『日本植民地研究の現状と課題』から10年: 植民地樺太研究における量的拡大と「逆コース」と」

池田 裕子(北海道東海大学)「日本語圏近代史そ

の2(社会・文化)」

ディン・ユリア(サハリン州郷土博物館)「ポスト・ソビエト期サハリン・クリル研究の基本的傾向」

韓恵仁(成均館大学校)「韓国における『サハリン韓人』関連研究状況」

ジョナサン・ブル(北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院)「近年の英語圏のサハリン/樺太史研究」

中山 大将(京都大学東南アジア地域研究研究所)「中国語圏におけるサハリン樺太史研究: 庫頁島中国固有領土論・山丹貿易・日本帝国植民地」

「サハリン/樺太史研究DB(データベース)」について: 個人作成資料目録の統合と活用」

主催 サハリン・樺太史研究会
共催 北海道大学大学院文学研究科北方研究教育センター

科学研究費基盤研究(A)「日ソ戦争および戦後の引揚・抑留に関する総合的研究」(研究代表者: 白木沢旭児)

学術研究助成基金助成金(挑戦的萌芽研究)「境界地域史への地域情報学活用: サハリン島マイクロ歴史情報データベースの構築と応用」

2 講演会

(1) エリヒ・カステン先生講演会「シベリア諸民族資料の多機能デジタル・アーカイブ構築へ向けて」

日時 2018年10月8日(月)14:30～16:00
会場 北海道大学アイヌ・先住民研究センター大会議室

主催 北海道大学アイヌ・先住民研究センター
言語アーカイヴ・プロジェクト

後援 北海道北方民族博物館
北海道大学大学院文学研究科北方研究教育センター

(2) 公開講演会ヤクーチア考古学の最前線、ヴィクトル M. ジャコノフ(ロシア科学アカデミーシベリア支部人文学・北方先住民研究所)「ヤクーチアの考古学: 前期旧石器時代から中世後期への文化発達」

日時 2019年3月26日(火)17:00～19:00
会場 北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟(W棟)5階W517

主催 科学研究費基盤研究(A)「千島アイヌの起源と経済史に関する考古学的研究」(研究代表者: 高瀬克範)

共催 北海道大学大学院文学研究科北方文化論講座(考古学分野)

東京大学大学院人文社会系研究科考古学研究室

北海道大学大学院文学研究科北方研究教育センター

北海道大学北極域研究センター

3 研究会、セミナー、ワークショップ

- (1) 北海道大学北極域研究センターセミナー、
Prof. Ben Fitzhugh (University of Washington),
“Exploring a Climate-ecosystem Link to
Prehistoric Human Population Change
around the North Pacific Rim”

日時 2018年6月5日(火)15:00～16:00
会場 創成研究機構3階セミナールームD
主催 北海道大学北極域研究センター
共催 北海道大学大学院文学研究科北方研究教育センター

- (2) サハリン・樺太史研究会第50回例会、高
木崇世芝「幕末にカラフトを調査した人々」
Jonathan Bull, “Karafuto Repatriates and the
Work of the Hakodate Regional Repatriation
Centre, 1945-50” (1945-50年における樺太
引揚者と函館引揚援護局の活動について)

日時 2018年9月15日(土)14:00～17:30
会場 北海道大学スラブ・ユーラシア研究セン
ター大会議室
主催 サハリン・樺太史研究会
共催 北海道大学大学院文学研究科北方研究教育センター

- (3) 国際ワークショップ、Bruce Forbes (ラッ
ランド大学)、David Anderson(アバディーン大学)、
林直孝(カルガリー大学)

日時 2019年2月24日(日)13:00～18:00
会場 北海道大学遠友学舎
主催 アイヌ先住民研究センター「先住民社会
における生業と食」プロジェクト、北極域共
同推進研究拠点「先住民主体の気候変動適応
に資する地域研究」
後援 北海道大学北方研究教育センター

- (4) サハリン・樺太史研究会第53回例会「在
外事実調査票と樺太」

日時 2019年3月2日14:00～17:30
会場 北海道大学人文・社会科学総合教育研究
棟(W棟)2階W202
主催 サハリン・樺太史研究会
共催 北海道大学大学院文学研究科北方研究教育センター

『北方人文研究』投稿規定

1. 投稿資格 投稿者は以下のものとする。
 - (1) 文学研究科の教員・大学院生、本センター共同研究員
 - (2) 上記以外で編集委員会が適当と認めたもの
2. 投稿区分 投稿区分は「論文」「研究ノート」「書評・紹介」「研究会報告」「資料」の5つとする。
3. 審査 投稿された「論文」および「研究ノート」は編集委員会で査読を行い、掲載の可否および区分を決定する。
4. 原稿枚数 原稿の種類に応じて下記の制限を設ける。(写真・図表を含む仕上がりページ数：おおむね1ページ和文40字×40行)

論文	20ページ以内
研究ノート	10ページ以内
書評・紹介	5ページ以内
研究会報告	2ページ以内
5. 使用言語・ファイル形式 使用言語は日本語または英語とし、原稿は原則としてワープロソフト (MS-WORD 推奨) で作成する。これに依りがたい場合は編集委員会に相談すること。「論文」および「研究ノート」を投稿する際には英文要旨 (タイトルを含めて1ページ) を提出すること。
6. 提出方法 投稿は電子形式とし、e-mail の添付ファイルで北方研究教育センター事務局に提出する。投稿された原稿・写真・図表その他は、掲載の採否にかかわらず原則として返却しない。
7. 提出先
 cnh-office@let.hokudai.ac.jp
 『北方人文研究』編集委員会宛
8. 電子公開 『北方人文研究』への投稿をもって、当該論文等の著者は『北方人文研究』が電子公開されることに同意したとみなす。北方研究教育センターは本誌の内容を、北海道大学学術成果コレクション (学術情報リポジトリ) 等で公開する。著者が論文等を他に転載する場合には、事前に編集委員会に連絡すること。

(2019年1月改訂)

『北方人文研究』執筆要項

1. 原稿には投稿票 (別紙様式) を付ける。投稿原稿には題名のみを記し、2行空けて本文を始める (執筆者名等は記さない)。査読は匿名でおこなわれるので、本文中で執筆者が特定できるような表現は避ける。
2. 用紙設定は A4 判とし、上下左右に 3.0cm のマージンを取り、和文原稿は 10.5 ポイント文字で1ページに40字×40行で、英文原稿は 12 ポイント文字で1ページに40行横書きで書く。数字は原則として算用数字を用い、記号や符号は慣用に従うこと。
3. 原稿には使用言語による要旨 (20行程度) を冒頭に付ける。
4. 本文中に文献に言及する場合は、カッコ書きで (著者姓 発行年: 頁数) のように記すこと。参考文献は論文末に一括して作成し、著者名のアルファベット順か 50 音順として、記載は以下にならうものとする。和文文献と欧文文献を分けるかどうかは各投稿者の専門分野の慣例にしたがう。
5. 注は脚注とし、本文中に上付きの算用数字で通し番号を付ける。
6. 写真・図表は執筆者によって提供された画像・図表ファイルをそのまま使用する (JPEG が望ましい)。また、写真・図表の著作権や使用許可については執筆者が責任を負うこととする。写真・図表には、番号を付して本文中の掲載場所にその旨を明記することとし、それらのキャプションは本文末尾に掲載する。画像・図表ファイルは、本文とは別ファイルとして提出する。
7. 論文の内容には十分な倫理的配慮を要するが、考慮を要する場合には、必ず本文中に著者の責任のもとで倫理的配慮をおこなったことを明記する。
8. 著者校正は二回を原則とし、必要最小限の修正のみをおこなう。

(2019年1月改訂)